

2026 年 9 月

高島屋と龍村美術織物が、ミラノデザインウィーク 2026 で共同発表した インテリアブランド「CASA TATSUMURA」日本初公開・販売開始



株式会社高島屋（本社：大阪市中区、代表取締役社長：村田善郎、以下「高島屋」）と、株式会社龍村美術織物（本社：京都市右京区、代表取締役社長 龍村育、以下「龍村美術織物」）はミラノデザインウィーク 2026 で共同発表したインテリアブランド「CASA TATSUMURA（カーサ タツムラ）」を 2026 年 9 月に開催される OSAKA DESIGN WEEK の期間にあわせて、大阪高島屋で日本初公開するのを皮切りに、新宿高島屋、日本橋高島屋にて順次展開・販売を開始いたします。

インテリアコレクションは、エントランスホール、リビングルーム、ダイニングルーム、ベッドルームを彩る龍村錦帯を贅沢にあしらった、全 6 種類のラインアップです。

龍村錦帯は 1927 年に初代・龍村平藏が高島屋で「第 1 回錦帯作品展」を開催したことに始まった、高島屋オリジナルの帯です。美術織物の最高峰を志すブランドとして受け継がれ、昭和、平成、令和と代々の平藏とともに制作が継承されています。

展示期間・会場

- ・ 2026 年 9 月 23 日（水・祝）～9 月 29 日（火） 大阪高島屋
1 階正面入口フロントステージ、6 階 POP UP STATION（6F1）※6 階は最終日午後 7 時迄
- ・ 2026 年 10 月 28 日（水）～11 月 3 日（火・祝） 新宿高島屋 11 階 呉服サロン
- ・ 2026 年 11 月 18 日（水）～11 月 23 日（月・祝） 日本橋高島屋 S.C. 本館 8 階 催会場

ミラノ・ブレラ地区のバルダサーリョールームで開催した展示には、6 日間で 1 万 2 千人以上が来場し、高い関心と評価を集めました。

ミラノデザインウィーク 2026 「フォーリサローネ」出展・現地レポートはこちら

https://www.takashimaya.co.jp/store/special/casa_tatsumura/?utm_source=prtimes&utm_medium=prtimes&utm_campaign=casa_tatsumura

総合プロデュース兼デザインに川村明子氏を起用、 家具製作はカリモク家具株式会社と協業

CASA TATSUMURA ブランドは、新ブランドの立ち上げにあたり、東京と富山の二拠点で活動する株式会社エイタブリッシュのクリエイティブディレクター川村明子氏を総合プロデュース兼デザイナーに起用しました。アートディレクション、グラフィックデザイン、インテリアデザインなど多角的に活躍する川村氏は、今回デビューする CASA TATSUMURA のブランディングとともに全ての家具のデザインを手がけています。また、本プロジェクトの始動にあたり、家具の製作パートナーとしてカリモク家具株式会社（本社：愛知県知多郡東浦町）をチームへと迎え入れました。優れた木工技術を持ち、素材を余すことなく生かすなど、カリモク家具の理念や取り組みは高く評価されており、

CASA TATSUMURA がめざす未来と、日本の文化継承において、最良のパートナーであると考えています。初のインテリアコレクションのデザインをするにあたり、織物と共存する家具の構造と、龍村美術織物の品格を最大限に魅せるための重厚感とディテールが重要であり、カリモク家具の豊富な経験と卓越した技術が最上のコレクションへ導いてくれたと考えています。



The An-Don

デザインの視点

Creative Direction / Furniture Design

川村明子 (Eightablish Inc.)

日本の美において「禅」に代表されるミニマルな静寂美というスタイルがありますが、その対極には黄金の煌びやかさ、躍動感のある表現も存在します。私たちは、その両方を現代の方法で称えたいと考えました。五代続く龍村平藏の織物の「意匠」は、自然や文化を「美術（アート）」として織物で描いています。それらを日本の伝統的な建築と家具に新たな形で調和させること。

「行燈」、「屏風」、「格天井」など日本の伝統的な建築や家具は、単なる「道具」ではなく、生活の知恵、美意識、階級制度を背景にしながらも「機能・素材・美学」を表現していました。

「行燈」は伝統的な日本のフロアライトです。直接的な強い光ではなく、間接的な「柔らかい光」は、陰影を伴う繊細な空間を作ります。日本の住宅は木造が主流で燃えやすかったため、火を保護しつつ、和紙を通して「柔らかい光」を演出した日本独自の手法であり、文化の1つだと考えます。その美意識はそのままに、人々がそのシーンを体感出来るよう、「行燈」の持つ柔らかい光と「美術織物（アート）」の鑑賞」の共存をめざしました。

移動可能で、部屋のサイズに合わせて空間を自由に分割できる、機能的な家具である「屏風」。これは、「機能性と可動式のアート」とも言えます。ここに龍村の「美術織物」である「帯」を「移動可能なアート」として存在させたのです。

日本建築において最も格式の高い様式とされる「格天井」は、角材を正方形の格子状に組み、「格式とデザイン性」とを表現した天井です。その立体的な格子を天井ではなくテーブルに落とし込み、見上げるものであった「美意識と格式」を別の視点で楽しんで頂けるよう考慮しました。

このように CASA TATSUMURA では、「素材・美意識・技術」を愛でることが出来ます。機能的で美しい家具となり、世界中の人々の意識の中に躍動を生むことを想像しています。



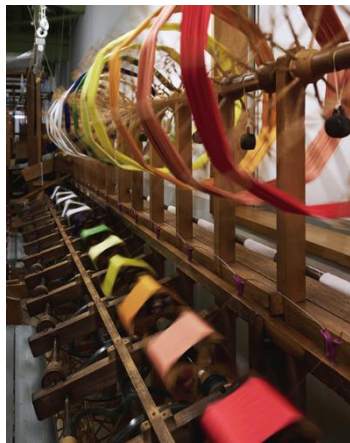
The Byou-Bu



The Gou-Buchi high / low

龍村平藏と高島屋

初代平藏が十六歳のときに織物の世界に入ることを決めた理由の一つは、叔父の田村太兵衛が大阪で丸亀屋という呉服店を経営していたことにありました。平藏は叔父の指導の下、呉服のこと、織物業のことを一つ一つ修得し、1894年京都にて18歳で独立。転機は、その4年後の1898年、太兵衛が初代大阪市長に選出されて丸亀屋を閉め、高島屋がそれを譲り受ける形で大阪へ進出することになった時に訪れました。この大阪出店は高島屋が飛躍する一つの契機となり、平藏にとっても織物業の拡大を果たす好機となりました。代々の平藏が、高島屋との関係に重きをなし、1927年の「第1回錦帯作品展」開催以来「錦帯」と称する龍村屈指の帯地が高島屋のみで扱われているのは、初代以来の強い信頼関係が築かれていることの証左であり、ともに立ち上げた CASATATSUMURA は日本文化継承の新たな姿を現代に示しています。



五代 龍村平藏（龍村育・1973～）

四代龍村平藏の長男。代々の龍村平藏が和装の世界で培って来た美意識、美的感覚、織り技術の素晴らしさを世界に広めるべく「和の躍動 和の解放」を理念に様々なクリエイター、職人とコラボレーションし、インテリア、アート作品として発表。ディオール 2025 年フオールコレクションで裂地が採用される。2026 年 CASA TATSUMURA を発表。



日本橋高島屋 呉服売場

ミラノデザインウィーク 2026「フォーリサローネ」出展概要

出展：株式会社高島屋、株式会社龍村美術織物

出展期間：2026 年 4 月 21 日～4 月 26 日

会場: Maurizio Baldassari Showroom（マウリツィオバルダサーリショールーム）

所在地：Via Solferino, 14, 20121 Milano

現地運営：Westerlies Inc.

家具・照明器具制作：カリモク家具株式会社、株式会社ワイ・エス・エム

総合プロデュース・広報：株式会社エイタブリッシュ

以上